

やつてみたうメツチャ楽しい農業、なりゆきで始めたけど、

昨年10月、新たに就農した若い農業女子がいる。生まれは米倉の兼業農家だったが、サラリーマンと結婚して3人の子の母となり、今は、妻・母・農業と忙しい毎日を送っている。就農のきっかけは、産休で里帰りしているとき知

「就農のきっかけは、オジサマや利用して下さる方とのコミュニケーションがメッチャ楽しい」とゆきかなあ」

「産休で米倉の実家に里帰りしているとき近所の知り合いの「オジサマ」から、米倉の『あれあい農園を手伝ってみたい』とかと声をかけられて」

「自分から積極的に農業を、ということではなかつたんですね。」

「6年前です」

「やってみて、どうでしたか。」

「楽しかった。すっごく。あれあい農園は市民の皆さんに畑の区画をお貸して、作物を作つてもらつてもらっています。だから触れ合いもそうです。」そこではもちろんですが、米倉と天樹には回転板をして苗も販売しているんです。その方たちともすぐコミュニケーションがれます。

「何と言つても一緒に働いている方たち、神田勝勇さんや当時の自治会長さんとか、元々ないでしょ。私がせるのがうまいんです。少し大きくなると養育するまくる」

「なにより楽しい職場だった、と。それと、お父さんたち、かっこいいんです。それが普段はだらだら酒ばかり飲んでしまふもないのに、作物育てることにに関してはプロ中のプロですし、機械いじつていると

り合いの「オジサマ」から、米倉の「ふれあい農園」を手伝つてみないかと声をかけられたこと。そこで、共同作業をするうちに、まさに「ふれあい」の楽しげ、忙いざながんばりがハンパない。水管理

作物を育てる面白さに気づいた。小林と遼光。遼光も最初80%とか、ちょっとつづいてきたかなく思つと『そろそろ外になれるんだよ』って遼光率50%で、完璧に育ててきたらやっと外に出せる。ポン

「普通、男つてそうですよ。仕事していなかったときはただの物体、粗大ごみです。『アハハ。仕事しているときの姿はあんまり見なことがないから。もし見ていれば、評価は変わりますよ笑』」

「一人間関係がよかつたとのことです、農業自体の楽しさもあるんですよ。」

「あります。あります。栽培がすごく楽しい。『アハハ。仕事しているときの姿はあんまり見なことがないから。もし見ていれば、評価は変わりますよ笑』」

「農業でメシを食つてやる、やるだけやつてみよう、と」

「一面倒なこと好きなんですね。『どうぞ、面倒と思わないのかもしね」

「新規就農したわけは、『一面倒なこと好きなんですね。』」

「ふれあい農園は任意団体だから保険もない冬場の収入もありません。私はダンナの扶養に入つてから私はいいんです」

「それが、3年前に幼な馴染の下妻航くんがふれあい農園で働くようになったんです。彼の子どもが二人いるんですけど、この収入では妻夫を養つていけない。月10万で冬は仕事を

「ふれあい農園は任意団体だから保険もない冬場の収入もありません。私はダンナの扶養に入つてから私はいいんです」

「それが、3年前に幼な馴染の下妻航くんがふれあい農園で働くようになったんです。彼の子どもが二人いるんですけど、この収入では妻夫を養つていけない。月10万で冬は仕事を

「ふれあい農園は任意団体だから保険もない冬場の収入もありません。私はダンナの扶養に入つてから私はいいんです」

「それが、3年前に幼な馴染の下妻航くんがふれあい農園で働くようになったんです。彼の子どもが二人いるんですけど、この収入では妻夫を養つていけない。月10万で冬は仕事を

する、さういうものやつたかな。アイツの手がかかるんですよ。泣きそうでした。神田さんに習つて毎日手がかかるけど面白い。上手くかけられたこと。そこで、共同作業をするうちに、まさに「ふれあい」の楽しげ、忙いざながんばりがハンパない。水管理

いつたときの達成感がハンパない。水管理と遼光。遼光も最初80%とか、ちょっとつづいてきたかなく思つと『そろそろ外になれるんだよ』って遼光率50%で、完璧くついてきたらやっと外に出せる。ポンと手がかかる」

「一男は『面倒と思わないのかもしね』『手がかかる』」

「男は『面倒と思わないのかもしね』『手がかかる』」

「それは言えます。トラクターと草刈り機とが軽トラなどの道具と農地は借りて『それが言えます。トラクターと草刈り機とが軽トラなどの道具と農地は借りて』」

「男は『面倒と思わないのかもしね』『手がかかる』」



ブドウハウスの小林奈保子さん

10/14土・15日

とんとんの秋の新高物語

農家の直売所
とんとん市場
●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
☎0254-20-2229
●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
☎025-274-2229
●白根店 9:00~19:00
新潟市南区能登406-2
☎025-372-2222



SHIBATA
HASSUN

食の魅力工場事業
「八寸おりおり」
キックオフ
イベント開催!!

世界が唸る和のエッセンス『八寸』とは
～食都しばたの可能性～

9月30日(土) 15:00~16:30(開場14:30)

新発田市庁舎(ヨリネスしばた)4階 新発田市議会議場

特別ゲストに岩佐十良氏(自由人 編集長)を招き、
「食」と「しばた」をテーマとしたトークイベントを開催します。

入场無料 入場には事前申込みが必要です。☎080-1265-4607(八寸おりおり事務局 相良) m.sagara0325@gmail.com

図書館はまちづくりの最重要拠点。 支えは十分な人員と資料購入費だ。



聖籠町からも聴衆が訪れていた。第一部の記念講演では「図書館の集客力はすべての公共施設の中で群を抜いており、地域の情報発信としてなくてはならないもの」として、まちづくりまつまるとうひづくり人材育成で決まる。優れた人材とは自分で考えて行動し、発信する人である。そして、考えるからには読書によって育つのである」として、理由について「文字情報は映像情報と違い、鑑賞するには読み解き力が必要で、読書は読者にそれを強いるので、自ずと読み解き力と想像力を高めながらがつて」で説明した。そして、その機能を担保するために、「適正な職員配置と十分な資料購入費がなければならぬ」と方説した。最後にアメリカのウェンデル・フォードの言葉「If information is currency of democracy, then libraries are its banks」(もし情報が民主主義の通貨だとすれば、図書館はその銀行だと結ぶ)を紹介した。

第二部では短時間ながら、主催者の図書館友の会や図書館援護会、イクネスしばたサポートークラブ、図書部会、図書館職員などと質疑応答が行われた。

挨拶の後、糸貫先生から提言があった。「まちづくりはまさに住んでいる人が自ら考えて行動する必要がある。人口減少にどう取り組んでいくか、それは図書館の利用者が中心になって考えるといい。そんな施設は図書館以外に思いつかない。利用者の年齢層が広い、いろんなことに関心を持つ方が利用している、そして交流しやすいのが図書館。ワークショップを図書館でやるのはとても有効な地域医療を考えるため書籍への対応をどうするか、様々な課題を当事者として共有する。図書館にはそんな活動をサポートする

書館は長い間の行政資料を持っているのが最大の強みその自治体以外のものも使うといい。そこには住民だけでなく、市長部局の人にも参加してもらわざとい効果的だ。根回しは館長さんの仕事、職員がコーディネートするそのためには職員は図書館以外のことにもアシテナを張って常に情報を集める必要がある。アシリティ能力も必要です。クエストに応じるだけではなくて、こちからおけかけます」



糸貫先生

——図書館に集まる人をまとめて、
「ワークショップです。図書館職員は育つてもういい」といふので、
次に貴殿次第に移った。
——図書館に集まる人をまとめて、
「ワークショップです。図書館職員は育つてもういい」といふので、
次に貴殿次第に移った。



制服リサイクルバンク はじめました

中学、高校に入学する際に、制服等の購入で多額のお金がかかります。
そこで少しでもお手伝いしたいと、制服等のリサイクルを始めました。
ぜひ、お譲りください。またぜひ気軽にご利用ください。

譲ってほしい方

各対象学校に通学している人に限ります。
※目的外利用を防ぐため、氏名を申告していただきます。

提供していただける方

クリーニングしてこども食堂にご持参下さい。

こども食堂 時間：午前10時～午後2時

- 長徳寺……………毎週土曜日
- 多田宅(本丸中学校校門前)……毎週日曜日



対象中学校

- 本丸中学校
- 第一中学校
- 猿橋中学校

対象高等学校

市内全高等学校
6校

対象品目

- 制服
- ブラウス
- 体操着
- 通学バッグ

お申し込み

右記へ電話をお願いいたします。
引き渡し場所、時間など相談いたします。

連絡先

フードバンクしばた事務局 090-3047-8732 (土田)